

大会名 Competition	第19回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-1	Year Month Day Time 2006 年 5 月 3 日 9 : 00
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A 兵庫県選抜 85 ●	<table border="1"> <tr><td>19 1st 29</td></tr> <tr><td>28 2nd 18</td></tr> <tr><td>18 3rd 30</td></tr> <tr><td>20 4th 21</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	19 1st 29	28 2nd 18	18 3rd 30	20 4th 21	OT	チーム B 能代工高 98 ○
19 1st 29							
28 2nd 18							
18 3rd 30							
20 4th 21							
OT							

主審:Referee
中 獄 希美子 (千葉)
副審:Umpire
高 根 聡 (秋田)
テーブル・オフィシャル:Table officials
秋田県立能代高等学校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	高 松 英 二	CAP	17	3	4	0	2	4	×	下 山 竜 良	CAP	12	0	6	0	3
5	×	松 崎 賢 人		28	4	7	2	1	5	×	満 原 優 樹		18	0	9	0	1
6	×	橋 本 龍 也		10	2	2	0	4	6	×	長 谷 川 技		12	0	2	8	5
7	×	松 田 直 樹		6	0	2	2	3	7	×	渡 部 敬 祐		11	3	1	0	2
8		矢 熊 達 彦		-	-	-	-	-	8	×	西 山 達 哉		38	4	12	2	1
9	/	榎 本 純 也		4	0	2	0	-	9	/	高 橋 健 太 郎		2	0	1	0	1
10	/	中 村 大 輔		8	0	4	0	2	10	/	遠 藤 悠 亮		2	0	1	0	1
11		青 井 祐 樹		-	-	-	-	-	11	/	鈴 木 啓 介		0	0	0	0	1
12	/	谷 直 樹		0	0	0	0	-	12	/	宮 川 光		3	1	0	0	-
13		東 海 圭 吾		-	-	-	-	-	13	/	永 須 亘		0	0	0	0	-
14		門 脇 賢 拓		-	-	-	-	-	14	/	館 山 健 太		0	0	0	0	-
15	×	浦 栄 作		12	0	5	2	2	15		村 上 永 英		-	-	-	-	-
16		坂 本 純		-	-	-	-	-	16		高 橋 陽		-	-	-	-	-
17		高 明		-	-	-	-	-	17		熊 谷 健		-	-	-	-	-
18		道 原 紀 晃		-	-	-	-	-	18		石 川 朝		-	0	-	-	-
コチ		堀 田 茂 信							コチ		加 藤 三 彦						
Aコチ		前 田 信							Aコチ		佐 々 木 信 吾						
合 計				85	9	26	6	14	合 計				98	8	32	10	15

※×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第19回大会のオープニングゲームとなる試合は、今年度「のじぎく国体」開催県の兵庫県選抜と能代工の対戦となった。どちらも展開の速いゲームを得意とするだけに能代カップの醍醐味を堪能できるゲームとなりそうだ。

第1Q開始早々、兵庫#5松崎の3Pで兵庫選抜が先制。能代工は#6長谷川、#8西山の3Pですぐさま反撃する。その後兵庫は外角からのシュートを軸に攻撃。能代工もハーフコートからの強いディフェンスで相手のミスを誘い、速攻や速いパス回しからのシュートで加点する。第1Qは19対29で能代工の10点リードで終える。

第2Q 能代工はディフェンスをオールコートに変えプレッシャーを強める。スティールからの速攻や#4下山からのアシストで加点し試合の流れをつかむかには見えた。しかし、兵庫は#5松崎の3Pやドライブインを中心に粘り強く追いつがる。能代工はチームファウルがかさみ残り1分で兵庫#15浦にフリースローを与え47対45と逆転を許す。終了間際#8西山がゴールを決め前半を47対47の同点で折り返した。

第3Q サイドが変わって後半、能代工は#7渡部の連続3Pで勢いづく。兵庫は#15浦がリバウンドやゴール下からの攻撃でがんばるものの54対61と差が開いたところで兵庫がタイムアウトを請求する。しかし能代工へ傾いた流れは変わらず65対77と差を広げられる。第3Qは18対30とやや一方的な展開となってしまった。

第4Qで差を詰めたい兵庫は#6橋本が先制するも、流れをつかむには到らない。#8西山の2本の3Pを含む活躍から71対89とこの試合最大となる18点差をつけられる。能代工は主力をベンチに下げ1年生ルーキー#14館山、#12宮川を投入する。兵庫は#4高松が3連続ゴールを決めるものの追いつくことはできず85対98でゲームを終了した。

能代工は#8西山の攻撃力が爆発し、ひとりで38得点の活躍。兵庫選抜も最後まで試合をあきらめない気力を見せた。両チームの頑張りが観客を魅了しオープニングゲームにふさわしい気持ちの良い試合となった。